

知基第190号
宜基渉第18号
平成23年6月24日

防衛大臣
北澤 俊美 殿

沖縄県知事 仲井眞 弘多

宜野湾市長 安 里 猛

MV-22 オスプレイ配備について

みだしのことについて、沖縄県及び宜野湾市は、去る2月の沖縄県軍用地転用促進・基地問題協議会の要請をはじめ、機会あるごとに、MV-22 オスプレイの配備の有無を含め、政府は、県民に十分な説明を行うよう求めております。

については、別紙の質問事項について、ご回答及びご説明いただきたく、お願い申し上げます。

(配備計画)

- 1 米本国やイラク等における、MV-22、CV-22、HV-22 の配備状況について、ご説明いただきたい。
- 2 米海兵隊は、普天間飛行場にMV-22 オスプレイ中隊を、2013 年度、2014 年度に 1 中隊ずつ配備する予定とされているが、配備スケジュールの詳細について、ご説明いただきたい。
- 3 オスプレイ中隊は (MV-22 が) 12 機で構成され、2 個中隊で 24 機となる。「地元へのお知らせ」では、MV-22 は CH-46 と代替する、とされているが、これにより普天間飛行場の所属機数はどのように変化するのか。
CH-53 等、CH-46 以外の所属機数の変化と併せて、ご説明いただきたい。
- 4 将校及び下士官の人数等、オスプレイ中隊の構成についてご説明いただきたい。これらのスタッフは、新たに沖縄に赴任するスタッフと、担当振り替え等による既存スタッフで賄われるものと想定されるが、これにより普天間飛行場のスタッフ数は、増減どのように変化するのか。
- 5 1992 年の普天間飛行場マスタープランには、同飛行場の北西の角部分は、オスプレイ中隊のための整備格納庫、駐機場として確保する旨の記載があり、2011 会計年度海兵隊航空計画においても、MV-22 に関連する普天間飛行場の軍建設プロジェクトが示されている。
これらをはじめ、MV-22 配備により普天間飛行場、キャンプ・ハンセン、北部訓練場など沖縄の米軍施設の設備等の変化及び当該施設整備の事業主体・予算について、ご説明いただきたい。

また、当該設備等の変化に伴う環境影響評価について、その実施を含め、ご説明いただきたい。

- 6 状況によっては、米国政府へMV-22 配備計画の修正を要求するのか、政府の基本的な考えをご説明いただきたい。

(運用)

- 7 去る6月6日の「地元へのお知らせ」において、CH-46と比較して相当に能力が高いとされているMV-22の配備により、海兵隊の活動エリアは、どのように変化するのか。
また、海兵隊のオペレーションはどのように変化するのか、ご説明いただきたい。
- 8 現在、普天間飛行場に配備されているCH-46は、普天間飛行場周辺において旋回飛行訓練を行っているが、仮にMV-22が配備された場合、同様の訓練が行われるのか。
またそれぞれの旋回飛行訓練の経路を図面に示し提示していただきたい。

(騒音)

- 9 「地元へのお知らせ」では、MV-22はCH-46と比較して一般的により静か、としているが、ヘリコプターモードと固定翼モードそれぞれの離着陸時の計測データ等による比較を示して、ご説明いただきたい。
- 10 資料「V-22 オスプレイについて」平成23年6月(防衛省)4.騒音において、2009年10月MV-22の米国西海岸配備に関する環境影響評価最終報告書が引用されている。
米西海岸の海兵隊基地と普天間飛行場は、周辺環境と飛行ルート等の運用が異なり、民間住宅地に隣接する普天間飛行場では、騒音被害の増加が懸念されるが、政府の認識

をご説明いただきたい。

1 1 普天間飛行場における航空機騒音規制措置の合意以降も、航空機騒音測定結果が、毎年多くの測定局で環境基準値を超過している現状に鑑み、政府は、MV-22 の配備について、どのように対応する方針か、ご説明いただきたい。

1 2 通常、新機種導入直後は乗員等のスタッフが新しい環境に慣れるために、集中的にさまざまなトレーニングを行い、運用回数(離着陸回数)が増加することが考えられる。

MV-22 の配備後は、普天間飛行場、キャンプ・ハンセン、北部訓練場など沖縄の米軍施設における運用回数(離着陸回数)は、CH-46 運用時と比較して増減どのように変化するか、また、これにより騒音データはどのように変化するか、ご説明いただきたい。

1 3 MV-22 の騒音は、ヘリコプターモードと固定翼モードで異なる。

固定翼モードは、ヘリコプターモードに比べると機体の方向転換に要する距離が長く、騒音エリアが拡大する。

ヘリコプターモードの場合、離着陸地点は大きな騒音にさらされるが、その範囲は狭い。

一方、固定翼モードの場合、局所的な騒音はヘリコプターモードより小さいが、騒音にさらされるエリアは広い。ただし離着陸時の滑走路付近では大きな騒音が発生するものと考えられる。

以上を踏まえ、周辺に住宅等が密集する普天間飛行場において、MV-22 の騒音被害を最も軽減できる飛行経路と飛行モードの組み合わせパターンを、複数のパターンとの比較により、示していただきたい。

1 4 アリゾナ州ユマ航空基地においては、同基地命令に、MV-22 の飛行訓練に関連した騒音規制などの項目が追加されたとの報道（沖縄タイムス 平成 23 年 2 月 9 日）がある。

報道の事実はあるか、また、当該規制等の詳細について、ご説明いただきたい。

更に、沖縄県が同様の措置を要請した場合、日本政府は普天間飛行場、キャンプ・ハンセン、北部訓練場など沖縄の米軍施設における、MV-22 の飛行訓練に関連した騒音規制などを米国政府に求めるか、認識を伺いたい。

1 5 米空軍が、アラバマ州ブリュートン市の民間空港で実施したCV-22 オスプレイの飛行訓練に対し、地元住民から騒音に対する苦情があり訓練を中止した、との報道（沖縄タイムス 平成 23 年 1 月 27 日）があるが、報道の事実はあるか、また、内容の詳細についてご説明いただきたい。

（安全性）

1 6 V-22 オスプレイは試作や生産初期の段階において 4 回（1991 年 6 月、1992 年 7 月、2000 年 4 月及び 12 月）重大な墜落事故を起こし 30 人以上が死亡、更に 2010 年 4 月、アフガニスタンで着陸事故により死傷者を出している。

その他にも、エンジンカバーからの出火、装置不具合や故障による不時着などが報告されている。

これらの事故について、それぞれの内容、原因、その後の対応等について、ご説明いただきたい。

1 7 資料「V-22 オスプレイについて」平成 23 年 6 月（防衛省）3．安全性において示された事故率のデータは、運用導入後となっており、試作や生産初期の段階における 4 件の重大な事故や、2010 年 4 月のCV-22（空軍仕様）による着陸事故等が除外されている。

当該機種が過去の開発段階において死亡事故を起こしていること等から県民が不安を抱いていることもあり、空軍仕様などを除外することなく、開発段階も含めた事故率の比較を示していただきたい。

18 資料「V-22 オスプレイについて」平成23年6月（防衛省）3.安全性において、運用導入後の事故率について、損害額200万ドル超の航空機関連の事故数とした理由及び根拠をご説明いただきたい。

19 市街地の中心にある普天間飛行場へのMV-22 配備において、特に考慮した安全管理の具体策があれば、ご説明いただきたい。

20 普天間飛行場の回転翼機には場周経路が設定されているが、政府は、MV-22 における場周経路の遵守をどのように確保されるのか、ご説明いただきたい。

21 V-22 が発する下降気流（downdraft）はCH-46 より強いものと考えられるが、これについて、データによる比較を示していただきたい。

また、MV-22 の下降気流を原因とする事故等についても併せて示していただきたい。

22 V-22 が排出する高温の排気ガスにより、アラバマ州で草地を燃やしたケースが報告されており、ディフレクターの不具合や舗装されていない地面への着陸等における火災リスクが危惧される。

当該高温排気と周辺への影響について、ご説明いただきたい。

(北部訓練場への影響)

2 3 MV-22 配備により想定される北部訓練場の自然環境への影響について、ご説明いただきたい。

特に、CH-46 より強い下降気流と火災リスクを伴う高温排気による自然環境への影響については、調査の実施を含め、詳細にご説明いただきたい。

2 4 北部訓練場ヘリパッドN4 地区は、県道 70 号線に隣接しており、強い下降気流による走行中のオートバイ等への影響が危惧される。これら、県道 70 号線への影響について、ご説明いただきたい。

2 5 MV-22 配備による北部訓練場ヘリパッド移設に伴う環境調査の新たな実施若しくは変更点について、ご説明いただきたい。

(影響調査)

2 6 米国防総省は 2000 年から 9 年間、米西海岸の海兵隊基地を対象にMV-22 配備に向けた環境影響評価を実施しているが、その内容と結果について、ご説明いただきたい。

2 7 政府は、普天間飛行場、キャンプ・ハンセン、北部訓練場などにおいて、MV-22 配備によって生じるであろう騒音や環境への影響について、事前に調査する予定はあるか、政府の認識を伺いたい。

(その他)

2 8 去る 6 月 6 日の「地元へのお知らせ」は、我が国に対する正式な通報ではない米国政府の発表について情報提供を行ったとのことであるが、今後は、MV-22 について、地元へはどのような連絡及び説明を想定しているのか、ご説明いただきたい。

29 普天間飛行場、キャンプ・ハンセン、北部訓練場などMV-22 配備の影響が想定される地域住民への事前説明会について、その実施を含め、政府の認識をご説明いただきたい。